

FLL関東予選大会

～「コアバリュー」受賞・総合第3位 & 全国大会出場決定～

2025.12.15 校長 西谷 秀幸

12月の4・5・6日と「みて さわって かんじて 大地の 芸術祭」というテーマで展覧会が開かれましたね。（各学年の作品を一部紹介）校長先生が言わなくてもここにいるみんなが感じたようなとても素敵な展覧会でした。

この展覧会の様子を2年1組の先生が動画にまとめてくれました。もしかしたらすでにクラスで見た人もいるかもしれませんが、先生たちのクラスルームに載せているので、朝会が終わったらぜひ、見てみてください。

また、いつものように、6年生が展覧会の会場準備を、そして、5年生が片付けをしてくれました。こうやって、見えないところで支えてくれている人たちにありがとうの気持ちを込めて拍手を送りましょう。

さて、この前の日曜日に、FIRST LEGO LEAGUE、省略してFLLというLEGOで作ったプログラミングのロボット大会があり、今年は、板五小の6年生2名、卒業した中学1年生2人、それと校長先生の前の学校の成増ヶ丘小学校の5年生が1人、成増ヶ丘小学校の卒業生1人という6人チーム「TEAM NARI-ITA Aster」が出場しました。

このFLLという大会は、世界110か国で行われている世界で一番大きなロボット大会の1つです。ロボット大会なのですが、ロボット以外にも、「イノベーション・プロジェクト」「ロボットデザイン」という2つプレゼンテーション（発表）をしたり、審査員からの質問に答えたりしなくてはならないので、プログラミングでロボットを動かすだけでは勝てず、チームメンバーで協力したり、自分で考えて取り組んだり、調べたことを分かりやすく発表したりする力が必要な大会なのです。

日曜日には、東京や東京の近くが県から40チームが出場し、「コアバリュー」部門で第1位になるとともに、総合第3位になって全国大会出場が決まりました。

次は、2月15日に全国大会があります。もしも、全国大会でも素晴らしい成績を残すことができれば、来年の6月頃に、今度は世界大会があります。

そして、2月の全国大会に向けて、また活動をしていくので、ぜひ応援してください。

なお、4年生、5年生、6年生の人で、ちょっと興味がある…という人は、2月の全国大会には出られませんが、見学したり体験をしたりすることはできますので、校長先生がメンバーにぜひ声をかけてください。

では、今シーズンはどんなロボットでどんなことをクリアしたのか動画で見せますね。

さあ、2学期も残り7日間です。2学期のまとめをしっかりと行いましょう。

これで朝会のお話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

2週間前になりますが、展覧会、お疲れ様でした。図工専科の稜先生、文化的行事委員の先生方を中心に、全教職員で成し遂げた素敵な会でした。準備・片付けを含めて、ありがとうございました。

また、2学期もあと7日間となりました。今週は、あゆみ完成版の提出となります。いそがしい中でたくさんの個人情報を取り扱いますので、くれぐれも管理の方をしっかりとお願いします。

さて、14日(日)に、F L L (FIRST LEGO LEAGUE) の関東予選大会がありました。このF L Lは、単にプログラミングしたロボットによる競技を行うだけではありません。ロボット競技の他に、毎年テーマ(今シーズンのテーマは「考古学」)に関する研究発表をするイノベーション・プロジェクト、自分たちのロボットやプログラミングについて紹介するロボットデザインという2種類のプレゼンテーションがあり、ロボット競技と2つのプレゼンテーション、そして、活動全般にわたる「コアバリュー」のそれぞれの順位を足して一番数値が少ないチームが勝利するようになるため、単にロボットが好きなだけではダメで、総合力が必要とされます。そして、それらをチームで主体的に取り組むため、プログラミング、プレゼンテーション力、見通しをもってチームで協働的に取り組む力、答えのない答えを自ら導き出して提案する力…など、まさにこれからの時代に必要な様々な力を身に付けることができます。

私は、このF L Lに前任の成丘小のときから取り組んでおり、9年目になる今シーズンは、成丘小の児童と卒業生によるチームと板五小のチームを合併させ、約5か月間、日曜日を中心に活動をしてきました。そして、関東予選大会2日目(40チームが参加)に出場し、「コアバリュー賞」と「総合第3位」というダブルを受賞し、全国大会出場を決めました。(全国大会に出場できるのは、40チーム中、上位10チームのみ。)

今後、2月15日(日)に、全国各地の大会を勝ち抜いた40チームが集まって、全国大会が開かれ、初出場ながら、世界大会を目指します。

これまで、応援していただいたり、土日や平日夕方以降のさくらルームを優先的に使用させていただいたり御協力をいただき、ありがとうございました。また、日頃から子供たちに声をかけてくださったりした先生方、ありがとうございました。2月までの間、どうぞよろしくお願いします。

【資料1】 F L L (FIRST LEGO LEAGUE) について

F L L (FIRST LEGO LEAGUE) は、米国の非営利団体「FIRST」とデンマークの「LEGO社」の連携によって作られた、9～16歳の子供たちのためのプログラミングによる国際的なロボット競技会で、世界110か国で約67,000チームが参加している。F L Lの競技は、テーマに基づいた「ロボットゲーム」と2つの「プレゼンテーション」という活動によって構成され、その順位の合計点で競う。「ロボットゲーム」は、チームで製作してプログラミングしたロボットを使い、1試合2分30秒の中でフィールドに設置されたミッションをいくつ攻略できるかを競う。(3試合行い、最も高い得点が記録)「プレゼンテーション」は、チームの研究成果「イノベーション・プロジェクト」(今シーズンのテーマ「考古学」について問題を特定し、解決策を提案)、「ロボットデザイン」(競技で使用するロボット・プログラム・戦略の発表)、という2種類について、審査員の前で発表を行い、2つのプレゼンテーションや活動全般にわたる「コアバリュー」もそれぞれ評価されて、順位が決められる。

【資料2】 師走の由来

12月の別名は師走(しわす)である。「師走」の由来には諸説ある。12月は年末で皆いそがしく、普段は走らない師匠さえも趨走(すうそう)することから「師趨(しすう)」と呼び、これが「師走(しはす)」になったとされているが、これは、平安時代から言われている「師走」の語源説の一つである。また、「師」とは、「師僧(=師匠である僧)」であり、法師が各家で経を読むために馳せ走る「師馳月(しはせつき)」から、「しはせ⇒しわす」であるとする説も一般的である。しかし、「しわす」ということば自体は、奈良時代からあるにもかかわらず、「師走」という漢字を当てて書くようになったのは、江戸時代からともされている。そこで「師走」の語源には、下記のように他から転じたものなど、いろいろ考えられている。

①「四極月(しはつ=四季が果てる)」 ②「為果つ月(しはつ=為し終える)」

③「年果つる月(としはつる=年が果てる)」

どれも「果てる」「終わる」という意味が含まれているようである。

では、その「師走」の最後の日、「おおみそか」の由来はというと、もともと30日を「みそか」と言っていたことに関わる。「三十日」(ミトヨカ⇒ミソカ)と転じ、旧暦では、1か月は29日、あるいは30日までだったため、29日は「くにちみそか」と言っていた。後に、新暦になり、1か月が31日の月もあるようになったため、月の最終日は全て「みそか」と言うようになったようである。その中で、12月末日は1年の最後の締めくくりということで「大」をつけて「大みそか」となったのである。

ちなみに、「大みそか」の別名「大つごもり」の由来は、月の満ち欠けに関係している。旧暦では、1か月を月の満ち欠けで決めており、1か月の終わりは、ちょうど月が隠れて見えなくなる時だった。つまり、「月隠れ(つきごもり)」。ここから「つごもり」と転じたようである。そして、「大みそか」と同じように、12月末日は「大つごもり」となったのだそうだ。